

ヒザ全クキカナイ
ノモ^{ノモンハン}ハン、ガダルカナルヨリツラカツタ事ハ實際ダ

オキナワ方面ハ追撃戦モウツツタ□□テ□
僕ハ無念。ナラズ

【遺書】

之ノ手紙文ダケヨク見テクレ
後ノ日記ハオ前ガ見テワカラナイ
僕ダケノ キオクニ 書^{カイ}タノダ
今思イ付タ事書イテ見タ
二十年四月廿日 床ノ中

戦死^{シテ}シモ 力 落スナ

オ前ガシツカリセズト子供ハ只レガ育ツ元氣デ育テ、クレ
僕モ心棒^{辛抱}シテ少々タクワヘモアル筈ダ 安心シテヤツテクレ
東京品川区南品川四丁目四九七番地 日下光子様ニ知ラセテクレ戦
死 御世話ニナッタ 厚ク御礼ヲ申シテ呉レ

亙理^{へ荒浜}アラハマ^{＊180}同年兵戦死爆単^爆デ
十九年九月三十日午前八時頃ダ

（佐藤新造）年39才。

僕ハ四十才二十年四月末カナ。戦死ダ

病死ハ絶対シナイゾ。
ガ死^ガダ食モノナシ^{＊181}

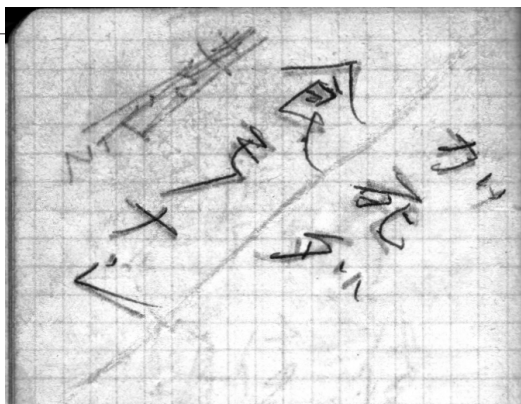
僕ノ分マデ子供ヲ可愛ガツテ
四人ノ子供ヲ育テテ呉レ
暮ハ東京ガ良イデセウト思フ
僕ハ分隊デモ最後マデ頑張ッタ

東京市^{＊182}ト統合ニナル時 電気局ニ<sup>二千〇〇四カ
一千三百四カ</sup>
受取書ハ家ノ桐箱有リ 位預カツタ ヨ
忘レズ受取リ子供ノ教育費ニ
二十年四月二十日 妻 シズエ

四月二十一日 床ノ中デハ字モ書ケナイ
時々足ガ全々働^働ケズ、手糸ノ如クナリ冷タシ
今朝カト思ツタ、明朝死スカ、生ルカノ□

＊180―荒浜は一九五五年亙理町と合併。佐藤新造氏は同郷の同年兵。

＊181―鉛筆書きをペンでなぞり、強く記している。



＊182―一九四三年七月一日に東京府が施行。東京府と東京市は廃止され、「東京都」となった。

十九日ノウレカツタヤシモ今日一ケマデ食ベ
何時モ一度デ喰モノヲ、之デオシテ知ル
暫ク久リニテ爆撃機午前十機来ル
腹全般ハレテ苦シクテナラズ草食クナツオイニナリシヨリ
九日中シカ カボチャ、トウミギ食タキモ自由ニナレズ。
床ニ付イテレバ仕方ナイ。
曹長、栗田、千葉等ノ人民攻思ハヤメテ置キマセウ。無念ダ

【遺書】

コレヨリ家庭覧ニシテ有リマスカラ
ヨク読ンデ下サイ

孝子、信子、勉、赤チャンモ。
父親ニ儘ス 親孝行ハ皆ンナデ
母親ニ孝行ヲ ツクシテ下サイ。父ノ分マデモ
ソシテ家内仲良ク 兄、弟、姉、妹、仲良ク クラシテ下サイ。
父ナキ オマイタチモ 何ニカニ 不自由デセウガ
イタシ方ナシ 之モオ国ノタメダ。
元氣デ、ホガラカニ オイシイモノデモタベテクラシテ下サイ
亘理ニアル田地ハ困ラナイ限リスグウリハラツテハナラナイ
感情ヲ害スル三年キ位後ノ事デモ良ロシイ

* 183 | 現在の東京都台東区浅草のそば店「かどや」の天井か。富五郎氏が通っていた当時は浅草象潟三―一六にあり、路地の角にあったことから「かどや」という店名になったという。

銀行ニ預ケルヨリモ 良イト思フカラダ
僕ノ墓所ハ 金ノ余リカ、ラナイ所ニ致シマセウ
ナゼナラ コレカラ金ノ入ルトコロハナイカラデス
亘理ニ スルカ 良ク考ヘナサイ
妻シズエ殿
僕ナキ後ノ暮シハ ヤハリ東京ニ居ルカ。 舎囲ニ引上ゲルカ
引上ゲテモシ方アルマイ
暮ラセタラ東京ニスカ最モ暮ラスニ 良イ道ヲ エラビナサイヨ。
二十年四月二十一日書ク
後七日デ〇二年ダネ
過テ見レバ早イモノ
戦況モ次第二良クナツテ来テ居ルノニ無念。
僕ハ反対ニ沈ンテ行ク
セメテ カドヤノ 天井デモタベタイ *183
クサレタ タクアンデモ良ロシイ
良ク木葉、草ノ葉、砂ヲカギリツイテ
今マデ 頑張ツタガ残念ダ
手紙ノヤリ取モ十八年八月カラ十一月頃マデダ 謹カナ期間デアツタ
四、五ヶ月食物デ送ツテホシカツタ
一度ダケ十二月頃小包付イタアリガトウ
二十年四月書ク